

85 瓢箪から駒? 「セミナー」で生まれた(る?)「社会教育士」の活躍の場・舞台?!

堂本 彰夫

(1) 「社会教育士」の活躍の場・舞台は、自らが創っていかねばならない?!

とにかく、この間の新型コロナウイルスの感染状況(特に、東京や沖縄の!)を見るにつけ(ある意味、うんざりさせられるほどである?)、日々の閉塞感、鬱屈感は増すばかりで(連日奮闘されているであろう関係職員や医療関係者等には、大変申し訳ないが!)、本コーナー(「教育協働への道」)への執筆意欲も滞っていた私であるが(ただし、理由は、それだけではない?)、この度、まさに「瓢箪から駒?」ではないが、まがりなりにも続けている、月1回の「教育協働セミナー」の次回(7/24)の開催の中で、標記のようなテーマ(書かなければいけないと思えるもの?)が、頭を過り出した次第である!

実は、本音を言うと、このコーナーで、今必要と思われるテーマ等について書いても、ほとんど外部からの反応?はなく(直接の連絡がない?尤も、この紙面自体が読みづらいということも、一因かもしれないが?ただし、それは、今のところ仕方がないので、甘受してもらえない!)、ましてや、最近、新たに出会った関係者(特に学校管理職や行政関係者)には、その意図するところ(パッションも含めて?)が伝わらず、やきもきというか、半分(以上?)諦めの気持ちが出て来始めていた私ではあるということである?!そう言えば、G市はともかく(一応は、連絡はあった!)、N市や北部のN市のCSの動き等は、その後、どうなっているのだろうか?あれから、何の連絡もないが、本当に淋しいものである(余計なことではあるが、あの人達は、一体何をしに、私の所へ来たのであろうか?)?!

とにかく、これではいけないとは思いつつも、一方では、やはり歳を取ったのもあろう?気力が、続かないのである(足・腰・目の不調も、さらに進んでいるのも理由ではあるが!)?!とは言え、数は少ないが、思いのある人に出会うと、何か、エールを送りたい、何か手伝えることがあれば、手伝えたい!また、そうしなければ、これまでの自分がやるせない?そういった気分にも誘われるのである(実際は、単なるお節介なのでもあろうか?)!それが、標記のテーマということにもなるわけである?!

まあ、そういうことは、これまでも何度も経験してはいるので、それ自体は、ある意味どうでもいいのであるが(100%、向こうの問題でもあるので!)、とにかく、目下の私の関心事は、例の「沖縄県(社会教育委員の会議)の答申」を巡る、さらなる発展的な?話題である(本当は、それだけではないのであるが?)!なかでも、いかに、今、私が付き合っている「青少年教育施設(そこにおける指定管理者)や「社会教育士」のみなさんの活躍の場をつくっていけばよいかということであるが(したがって、もちろん一般論ではない!)、今回は、そのことに焦点を当て、久し振りに?論を立てることにしたわけである?!

と言うのも、ふと気がついてみると、次回の「教育協働セミナー」(第二部)は、そのことを実現?する、具体的な第一歩となるのではないかとということであった?!まさに、「瓢箪から駒?」ということであるが、「人」の視点でみると、件の「社会教育士」の存在と活躍は重要なものであることは言うまでもないが、今回の話題提供者は、そのことを、いみじくも指し示しているということである?!要は、そこでは、新たな試みとして、沖縄のSさんと高知のNさん(二人とも「社会教育士」を名乗れる人!)のコラボ発表を企画しているのであるが、互いの紹介的な部分を絡ませながら(一応、Nさんに焦点を当て?)、二人が、今を、どのように迎えている(生きている?)のか、言わば、その、二人の「教育協働のリアリティ」を、今回の出会いの妙として演技・演出してもらおうということである!

(2) 改めて、その「教育協働セミナー」に、何を見出すのか?

そこで、改めて、その「教育協働セミナー」に、何を見出すのか?である!それは、端的に、「教育協働」にとって必要不可欠な存在である、例の「社会教育主事」の養成・発令の状況が、まさにこのままではジリ貧となり、新たな可能性(突破口)として、「社会教育士」の活動・活躍の場づくりが必要となるわけであるが、実は、そうは言っても、結局のところ、その可能性(突破口)は、自分(達)で見出していかねばならない?そういうことを、実際に、徐々に感じ始めている私なのである(私の知らない所では、そうでもないのかもしれないが?)!そして、その新たな可能性(突破口)を、このセミナー自体で、具体的にイメージ出来るのである?!

何故なら、このコーナーでも、繰り返し述べてきたつもりであるが、「社会教育士」の意義や可能性は、もともと、そうした仕事や活動に関わる実績(意欲も!)を持つ人が、「社会教育主事資格」を取得し(おそらく、事実上は「講習」によって!)、たとえ発令がなくても(もちろんあってもよいが!ただし、その発令が解かれても、つまり、どこに移動しても、「社会教育士」と名乗って活躍していくことが、その本質でもある?)、それぞれが、その仕事や活動が続けられることが重要なのである!そうでなければ、その資格取得(→名乗り)は、ほとんど意味はないし、世間からの注目や評価も得られない(自己満足や自分へのご褒美?ということであれば、それはそれで結構ではあるが、社会的にはあまり意味はない?つまり、本人のための「生涯学習」の機会であれば、本末転倒である?!)?!

ということで、そのことは、他方で、個々人ではなく、チームとして、あるいは活動のネットワークとして、

その仕事が繰り広げられていくことが重要となるということでもある(ただし、個々人として、活躍が出来、しかも周囲から、その実績や存在が評価されれば、それはそれで、またよい!)!そして、たとえ安定した職に就いていない「社会教育士」にあっても(実際は、多くの人が、そうした境遇の中で活動している、否、していく?非常勤職員や嘱託職員として!もちろん、指定管理者としてのNPOや社団法人のスタッフも含めて!)、今回のように、ネット上でつながり、そして、ここが重要であるが、ある社会教育士にとっては、そのネット上での活躍・活動の場が創れるということが注目されるということである?!それは、端的に、ある種の「プロデュース能力」の発揮ということになるが、他の人や事業所の活動や実績を、ズームや動画等を使った研修や出会いづくりの場面で、まさに「演出」するという仕事である!

今回は、他県で活躍する(実績を有している)、小学校のベテラン(再任用)教師(女性、管理職経験者)にスポットを当て、彼女が、どういうことを行ってきた教師なのか?そして、どういうところが評価できるのか?あるいはまた、彼女が、逆に、どういうことを、今感じているのか、あるいは、そのために、どういう関係や情報を得たいと思っているのかといったこと等、そういうところを、インタビュー(対話)や資料(PPや動画等)を用いて、演出(プロデュース)するということである!(「社会教育士」としての)Sさんの仕事(役割)は、それであるということである?!ちなみに、もう一人の彼女は、そこに乗る?「女優(アクトレス)」ということになる(ある意味、笑い?)!

(3)「モデルケース?」、あるいは「活躍・活動の場・舞台の創出?」となれば、本当に嬉しい?!

果たして、そのことが、思惑通り?進んでいくのかは、現時点では、まったく未知数であるが、少なくとも、その「モデルケース?」、あるいは「活躍・活動の場・舞台の創出?」ということにはなるであろうから、後は、当事者達、そして、セミナーに参加するみなさんが、どう判断し、どう生かすかであることは言うまでもない?!そして、可能ならば、そうした作品?を、HPやブログに揚げ、教材?として、商品化?することが出来れば、彼の収入?にもつながるし、さらには、新たな職が得られることにもなる(そうした仕事や能力を生かしたい事業所等があれば、なおさらである!)?!

そして、さらに可能ならば、そうした個々の社会教育士の活動のネットワークを創り(NPO化等を含む!)、様々な人、事業所等とタイアップして、社会貢献を果たす?!現在では、今般のコロナ禍による、直接の出会いの縮減等への対応策(弥縫策?)という面もあるが、そういう意味では、ある種の「苦肉の策」とも言えなくはないが、これからの「ICT」の活用場面の有望性を見通せば、相応の意義・発展可能性を有していることは間違いないであろう?!問題は、どこまで、こうしたことが、二人に受入れられるのか?もちろん、期待と不安?が交錯する私であるが、事前の打ち合わせ?では、かなりの感触は得られていると、独り合点している?!とにかく、遊び心も入れて、二人に、楽しく演技・演出してもらいたいのである?!

ということで、これは、まだまだ、私の妄想という段階であるかもしれないが、こうした企画・プログラムは、是非社会において、実現されて欲しいものである!学校の教師や社会教育施設(指定管理を受けているか否かは問わず!)のスタッフ、そして、行政の嘱託職員として働く意欲ある人達(この人達は、身分、そして収入的には不安定で、一つの職では、数年間で退職を余儀なくされる!)、こうした人達のネットワークは貴重なのである?!

そこで、ここでは最後になるが、今、私は、全国的な社会教育行政の地盤沈下あるいは地殻変動に関わって、一つの大きな問題提起をしなければいけないと考えている!それは、いかにして、社会教育を、学校教育と連動させて、地域の中に位置づけていけばいいのか、そして、いかにして、望ましいしくみを創り出していけばいいのか(このことは、教育の根本法である「教育基本法」、とりわけ第3条の実質化を意味する!)?そういうことにつながる命題であるが、そこにおいては、「社会教育士」や「指定管理者(NPO法人等)」の参画は、是非とも必要であるということである(失礼ではあるが、学校教育、社会教育双方の内部からは、そうしたことへの実力やエネルギーは生まれて来そうにはない?)!だから、気にもなるし、そうした人々に対して(もちろん、思いが通じ合える人々であるが!)、エールを送りたいし、支援もしたいのである(ただ、残念ながら、財政的な支援は無理!笑い?)!

尤も、そこには、北海道のような、新たな胎動(「社会教育主事講習」の自前開催と「社会教育主事/社会教育士」の養成と配置の充実)、岡山市のような、市内全公民館(37館?)への「社会教育主事」の、市長部局職員との兼務発令、一方で、岐阜県のような、思い切った舵切、つまり社会教育行政の首長部局への全面移動、そして、そこにおける「地域学校協働活動」の、岐阜大学との協働体制確立もあるが(ちなみに、前者の事例だけであれば、佐賀県も該当する?!)、再び、元の社会教育行政体制に戻っているところもある(名称回帰も含めて)!

だが、それらは、それぞれの暗中模索、自助努力の賜物であって、決して全国一枚岩的に進められているわけではない?!多様なしくみ、取り組みがあることは、それ自体としては、よいことであるが、一方で、それを支える理論、否、事実上は法律の中での大きな枠組みが、一方で確かなものでなければ、事はうまく進まない?学校教育、社会教育双方の関係者が、本当に「協働」を必要とする理論と行動の枠組みを共有出来なければ、「生涯学習社会の実現」などは、相変わらず言葉(スローガン)だけに終わってしまうのである?!繰り返すが、そこに、本物の?「社会教育士」や「指定管理者(NPO法人等)」の参画が、是非とも必要だということである?!